

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	単位型投信／海外／債券	
信託期間	約5年1カ月間(2016年8月18日～2021年9月10日)	
運用方針	安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないます。	
主要投資対象	ベビーファンド	ダイワ高格付日本企業外債マザーファンド2016-08の受益証券
	ダイワ高格付日本企業外債マザーファンド2016-08	米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての社債等
ベビーファンドの運用方法	<p>①主として、マザーファンドの受益証券を通じて、日系企業が発行する外債建ての社債等(劣後債を除きます。以下同じ。)に投資することにより、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないます。</p> <p>※日系企業とは、日本企業もしくはその子会社をいいます。</p> <p>※社債等には、日本の政府機関、地方公共団体等が発行する債券を含みます。</p> <p>②マザーファンドの受益証券の組入比率は、通常の状態でも高位に維持することを基本とします。</p> <p>③保有実質外貨建資産については、(為替ヘッジあり)においては為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行ないます。(為替ヘッジなし)においては為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは原則として行ないません。(部分為替ヘッジあり)においては為替ヘッジを行なうことにより、当ファンドの実質的な円貨比率を70%に近づけることをめざします。</p> <p>※保有実質外貨建資産とは、当ファンドが保有する外貨建資産およびマザーファンドが保有する外貨建資産のうち当ファンドに属するとみなした外貨建資産をいいます。</p>	
	マザーファンドの運用方法	<p>①運用にあたっては、以下の点に留意します。</p> <p>イ. 投資対象は、主として日系企業が発行する米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての社債等とします。</p> <p>※必ずしも、上記通貨のすべてが組み入れられるわけではありません。</p> <p>ロ. 流動性の確保およびポートフォリオの修正デュレーションの調整のため、米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての海外の国債やコマーシャル・ペーパー等に投資することがあります。</p> <p>ハ. 債券の格付けは、取得時においてA格相当以上(R&amp;I、JCR、S&amp;P、フィッチのいずれかでA-以上またはムーディーズでA3以上)とします。</p> <p>ニ. ポートフォリオの修正デュレーションは、当ファンドの残存年数+0.3(年)以内とすることをめざします。</p> <p>②為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは原則として行ないません。</p>
組入制限	ベビーファンドのマザーファンド組入上限比率	無制限
	マザーファンドの株式組入上限比率	純資産総額の10%以下
分配方針	<p>分配対象額は、元本超過額または経費控除後の配当等収益のうちいずれか多い額とし、原則として、経費控除後の配当等収益の中から分配することをめざします。ただし、基準価額の水準等を勘案し、元本超過額も含めて分配を行なうことがあります。なお、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。</p>	

当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行ないます。ファミリーファンド方式とは、受益者からの資金をまとめてベビーファンド(当ファンド)とし、その資金を主としてマザーファンドの受益証券に投資して、実質的な運用をマザーファンドで行なう仕組みです。

# ダイワ高格付日本企業外債ファンド (為替ヘッジあり／為替ヘッジなし／ 部分為替ヘッジあり) 2016-08

## 運用報告書(全体版) 第4期

(決算日 2018年9月10日)

### 受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、「ダイワ高格付日本企業外債ファンド(為替ヘッジあり／為替ヘッジなし／部分為替ヘッジあり)2016-08」は、このたび、第4期の決算を行ないました。

ここに、期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

## 大和投資信託

Daiwa Asset Management

東京都千代田区丸の内一丁目9番1号

お問い合わせ先(コールセンター)

TEL 0120-106212

(営業日の9:00～17:00)

<http://www.daiwa-am.co.jp/>

<3617>

<3618>

<3619>

為替ヘッジあり

## 設定以来の運用実績

決算期	基準価額				受益者 利回り	公社債 組入比率	債券 先物比率	元本 残存率
	(分配落)	税込み 分配金	期中 騰落額	期中 騰落率				
設 定 (2016年 8月18日)	円 10,000	円 —	円 —	% —	% —	% —	% —	% 100.0
1 期末 (2017年 3月10日)	9,522	50	△ 428	△ 4.3	△ 7.6	94.8	—	98.6
2 期末 (2017年 9月11日)	9,763	30	271	2.8	△ 1.5	93.8	—	98.0
3 期末 (2018年 3月12日)	9,465	10	△ 288	△ 2.9	△ 2.8	89.4	—	95.3
4 期末 (2018年 9月10日)	9,392	5	△ 68	△ 0.7	△ 2.5	98.4	—	68.9

(注1) 基準価額の騰落額および騰落率は分配金込み。

(注2) 公社債および債券先物の組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

(注3) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）を除きます。

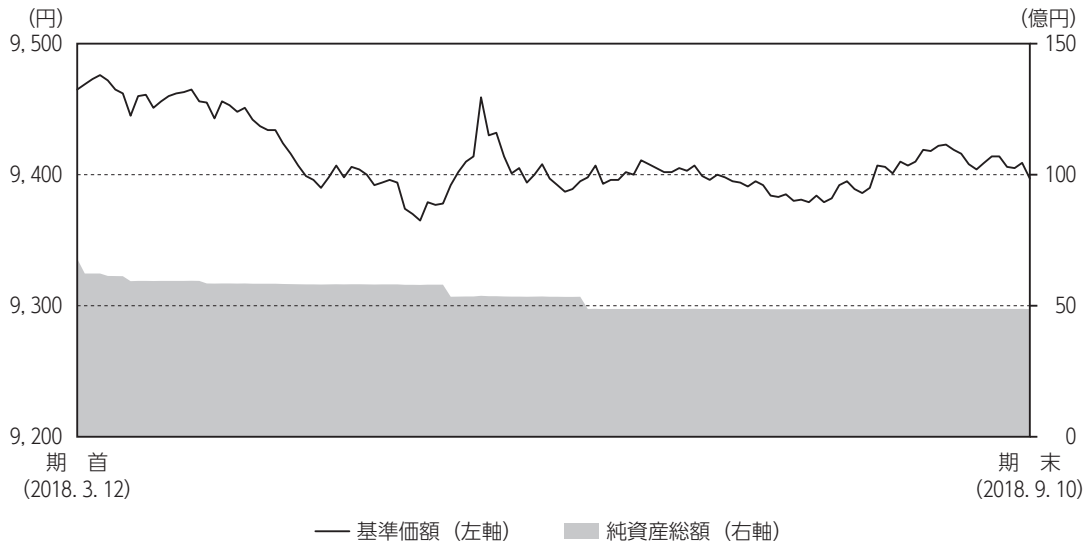
(注4) 債券先物比率は買建比率－売建比率です。

(注5) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。



## 運用経過

### 基準価額等の推移について



(注) 期末の基準価額は分配金込みです。

#### ■ 基準価額・騰落率

期首：9,465円

期末：9,392円（分配金5円）

騰落率：△0.7%（分配金込み）

#### ■ 基準価額の主な変動要因

「ダイワ高格付日本企業外債マザーファンド2016-08」の受益証券を通じて、主として日系企業が発行する米ドル建ての社債に投資し、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行なった結果、保有債券からの利息収入はプラスに寄与したものの、社債金利の上昇（債券価格の下落）などを反映し、基準価額は下落しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

ダイワ高格付日本企業外債ファンド（為替ヘッジあり）2016-08

年 月 日	基 準	価 額		公 社 債 率 組 入 比	債 先 物 比 券 率
		騰 落 率			
(期首) 2018年 3月12日	円	9,465	— %	89.4 %	— %
3月末		9,462	△ 0.0	96.3	—
4月末		9,398	△ 0.7	100.2	—
5月末		9,430	△ 0.4	96.2	—
6月末		9,408	△ 0.6	98.1	—
7月末		9,379	△ 0.9	98.3	—
8月末		9,409	△ 0.6	98.4	—
(期末) 2018年 9月10日		9,397	△ 0.7	98.4	—

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

**投資環境について**

(2018. 3. 13 ~ 2018. 9. 10)

**米国債券市況**

米国債券市場では、国債や社債の金利が上昇（債券価格は下落）しました。

期首より、米国が保護主義的な政策を相次いで打ち出したことを受けて市場のリスク回避姿勢が強まったことなどから、国債金利は低下したものの、2018年4月以降は、米中貿易摩擦への懸念が後退し、金利は上昇傾向となりました。しかし5月後半に入ると、イタリアの政治情勢に対する懸念が高まり、金利は急速に低下しました。その後は、イタリアの政治情勢への懸念が和らいだことに加え、FOMC（米国連邦公開市場委員会）で利上げが実施されたことや雇用統計で賃金上昇率が予想以上の伸びになり、インフレ率の上昇が懸念されたことを背景に、金利は上昇しました。

こうした環境下、米ドル建ての社債については、期首より市場のリスク回避姿勢が強まったことを背景にスプレッド（国債に対する上乗せ金利）が拡大したものの、2018年6月以降は反転し、期末にかけて拡大幅を縮める展開となりました。

**前期における「今後の運用方針」****当ファンド**

「ダイワ高格付日本企業外債マザーファンド2016-08」の受益証券を高位に組み入れるとともに、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行いません。

**ダイワ高格付日本企業外債マザーファンド2016-08**

主として日系企業が発行する米ドル建ての債券に投資し、金融セクターを軸としたポートフォリオを維持することにより、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざす方針です。

## ポートフォリオについて

(2018. 3. 13 ~ 2018. 9. 10)

### ■当ファンド

「ダイワ高格付日本企業外債マザーファンド2016-08」の受益証券を高位に組み入れるとともに、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行ないました。

### ■ダイワ高格付日本企業外債マザーファンド2016-08

主として日系企業が発行する米ドル建ての債券に投資し、流動性や利回り面で投資妙味のある金融セクターを軸とするポートフォリオを維持しました。

## ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

## 分配金について

当期の1万口当り分配金（税込み）は5円といたしました。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

### ■収益分配金の計算過程

計算期間末における経費控除後の配当等収益が52,730,503円であり、純資産額の元本超過額がないため、経費控除後の配当等収益52,730,503円（1万口当り101.65円）を分配対象額として、うち2,593,612円（1万口当り5円）を分配金額としております。



## 今後の運用方針

### ■当ファンド

「ダイワ高格付日本企業外債マザーファンド2016-08」の受益証券を高位に組み入れるとともに、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行いません。

### ■ダイワ高格付日本企業外債マザーファンド2016-08

主として日系企業が発行する米ドル建ての債券に投資し、金融セクターを軸としたポートフォリオを維持することにより、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざす方針です。

## 1万口当りの費用の明細

項 目	当 期 (2018. 3. 13~2018. 9. 10)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	25円	0. 269%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は9, 411円です。
(投 信 会 社)	(15)	(0. 162)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託銀行への運用指図、基準価額の計算、目論見書・運用報告書の作成等の対価
(販 売 会 社)	(9)	(0. 094)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 銀 行)	(1)	(0. 013)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売買委託手数料	—	—	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有価証券取引税	—	—	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	1	0. 011	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(1)	(0. 006)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監 査 費 用)	(0)	(0. 004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(そ の 他)	(0)	(0. 001)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	26	0. 280	

(注 1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注 2) 金額欄は各項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

(注 3) 比率欄は 1 万口当りのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。



■売買および取引の状況

親投資信託受益証券の設定・解約状況

(2018年3月13日から2018年9月10日まで)

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
ダイワ高格付 日本企業外債 マザーファンド2016-08	36,951	40,000	2,023,291	2,181,400

(注) 単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等

当期中における利害関係人との取引はありません。

■組入資産明細表

親投資信託残高

種 類	当 期 末		
	期 首	口 数	評 価 額
	千口	千口	千円
ダイワ高格付日本企業外債 マザーファンド2016-08	6,370,535	4,384,196	4,853,305

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2018年9月10日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
ダイワ高格付日本企業外債 マザーファンド2016-08	4,853,305	98.5
コール・ローン等、その他	74,377	1.5
投資信託財産総額	4,927,682	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 外貨建資産は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。なお、9月10日における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル＝110.93円です。

(注3) ダイワ高格付日本企業外債マザーファンド2016-08において、当期末における外貨建純資産(6,137,723千円)の投資信託財産総額(6,155,054千円)に対する比率は、99.7%です。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2018年9月10日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	9,749,001,197円
コール・ローン等	74,377,312
ダイワ高格付日本企業外債 マザーファンド2016-08 (評価額)	4,853,305,347
未収入金	4,821,318,538
(B) 負債	4,877,153,617
未払金	4,861,171,181
未払収益分配金	2,593,612
未払信託報酬	13,171,832
その他未払費用	216,992
(C) 純資産総額 (A - B)	4,871,847,580
元本	5,187,224,495
次期繰越損益金	△ 315,376,915
(D) 受益権総口数	5,187,224,495口
1万口当り基準価額 (C / D)	9,392円

\* 当期末の計算口数当りの純資産額は9,392円です。

\* 当期末の純資産総額が元本額を下回っており、その差額は315,376,915円です。

■損益の状況

当期 自 2018年3月13日 至 2018年9月10日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	△ 13,079円
受取利息	173
支払利息	△ 13,252
(B) 有価証券売買損益	△ 133,688,786
売買益	178,570,837
売買損	△ 312,259,623
(C) 有価証券評価差損益	105,172,692
(D) 信託報酬等	△ 14,664,064
(E) 当期損益金 (A + B + C + D)	△ 43,193,237
(F) 前期繰越損益金	△ 383,886,079
(G) 解約差損益金	114,296,013
(H) 合計 (E + F + G)	△ 312,783,303
(I) 収益分配金	△ 2,593,612
次期繰越損益金 (H + I)	△ 315,376,915

(注1) 有価証券評価差損益は、有価証券の期末の評価損益と期首との差額です。

(注2) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示していません。

(注3) 解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。

(注4) 収益分配金の計算過程は5ページをご参照ください。

収 益 分 配 金 の お 知 ら せ	
1 万 口 当 り 分 配 金 (税 込 み)	5 円

**分配金の課税上の取扱いについて**

- ・分配金については、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%および地方税5%）の税率による源泉徴収が行なわれ、申告不要制度が適用されます。なお、確定申告を行ない、申告分離課税または総合課税（配当控除の適用はありません。）を選択することもできます。
- ・法人の受益者の場合、税率が異なります。
- ・税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になることがあります。くわしくは、販売会社にお問い合わせください。
- ・課税上の取扱いの詳細につきましては、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

為替ヘッジなし

設定以来の運用実績

決算期	基準価額 (分配落)	価額			受益者 利益回り	公社債 組入比率	債券 先物比率	元本 残存率
		税込み 分配金	期中 騰落額	期中 騰落率				
設定(2016年8月18日)	円 10,000	円 —	円 —	% —	% —	% —	% —	% 100.0
1期末(2017年3月10日)	11,045	90	1,135	11.4	20.2	96.1	—	100.0
2期末(2017年9月11日)	10,726	70	△ 249	△ 2.3	8.3	94.6	—	100.0
3期末(2018年3月12日)	10,273	70	△ 383	△ 3.6	3.2	89.5	—	100.0
4期末(2018年9月10日)	10,638	70	435	4.2	4.5	98.3	—	57.2

(注1) 基準価額の騰落額および騰落率は分配金込み。

(注2) 公社債および債券先物の組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

(注3) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）を除きます。

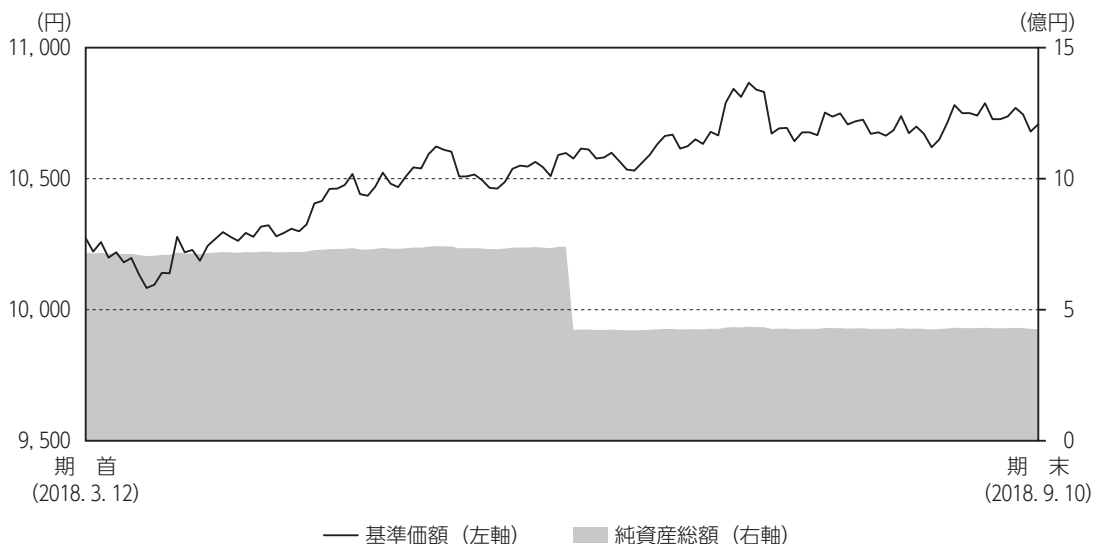
(注4) 債券先物比率は買建比率－売建比率です。

(注5) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。



## 運用経過

### 基準価額等の推移について



(注) 期末の基準価額は分配金込みです。

#### ■ 基準価額・騰落率

期首：10,273円

期末：10,638円（分配金70円）

騰落率：4.2%（分配金込み）

#### ■ 基準価額の主な変動要因

「ダイワ高格付日本企業外債マザーファンド2016-08」の受益証券を通じて、主として日系企業が発行する米ドル建ての社債に投資した結果、社債金利の上昇（債券価格の下落）はマイナス要因となったものの、保有債券からの利息収入や円安米ドル高がプラスに寄与したため、基準価額は上昇しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

年 月 日	基 準	価 額		公 社 債 率 組 入 比 率	債 先 物 比 率 券 率
		騰	落 率		
(期首)2018年3月12日	円		%	%	%
	10,273	—		89.5	—
3月末	10,219	△	0.5	96.7	—
4月末	10,462		1.8	98.4	—
5月末	10,462		1.8	98.2	—
6月末	10,632		3.5	97.7	—
7月末	10,666		3.8	98.3	—
8月末	10,727		4.4	98.2	—
(期末)2018年9月10日	10,708		4.2	98.3	—

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

## 投資環境について

(2018. 3. 13 ~ 2018. 9. 10)

### ■米国債券市況

米国債券市場では、国債や社債の金利が上昇（債券価格は下落）しました。

期首より、米国が保護主義的な政策を相次いで打ち出したことを受けて市場のリスク回避姿勢が強まったことなどから、国債金利は低下したものの、2018年4月以降は、米中貿易摩擦への懸念が後退し、金利は上昇傾向となりました。しかし5月後半に入ると、イタリアの政治情勢に対する懸念が高まり、金利は急速に低下しました。その後は、イタリアの政治情勢への懸念が和らいだことに加え、FOMC（米国連邦公開市場委員会）で利上げが実施されたことや雇用統計で賃金上昇率が予想以上の伸びになり、インフレ率の上昇が懸念されたことを背景に、金利は上昇しました。

こうした環境下、米ドル建ての社債については、期首より市場のリスク回避姿勢が強まったことを背景にスプレッド（国債に対する上乗せ金利）が拡大したものの、2018年6月以降は反転し、期末にかけて拡大幅を縮める展開となりました。

### ■為替相場

米ドルは対円で上昇しました。

期首から2018年3月末にかけては、米中貿易摩擦に対する懸念から市場のリスク回避姿勢が強まり、米ドル円は下落しました。その後は、米中貿易摩擦への懸念が後退したことや米国金利の上昇などを背景に、米ドル円は上昇しました。5月後半には、イタリアの政治情勢に対する懸念から円高圧力が一時強まりましたが、その後は、FOMCにおいて利上げの加速が示唆されたことや株価が堅調に推移したことなどから、米ドル円は上昇する動きとなりました。しかし7月後半以降は、日銀が長期金利の上昇を容認するとの観測から円高が進行し、米ドル円は上値が重い展開が続きました。

## 前期における「今後の運用方針」

### ■当ファンド

「ダイワ高格付日本企業外債マザーファンド2016-08」の受益証券を高位に組み入れます。

### ■ダイワ高格付日本企業外債マザーファンド2016-08

主として日系企業が発行する米ドル建ての債券に投資し、金融セクターを軸としたポートフォリオを維持することにより、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざす方針です。

## ポートフォリオについて

(2018. 3. 13 ~ 2018. 9. 10)

### ■当ファンド

「ダイワ高格付日本企業外債マザーファンド2016-08」の受益証券を高位に組み入れました。

### ■ダイワ高格付日本企業外債マザーファンド2016-08

主として日系企業が発行する米ドル建ての債券に投資し、流動性や利回り面で投資妙味のある金融セクターを軸とするポートフォリオを維持しました。

## ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

## 分配金について

当期の1万口当り分配金（税込み）は70円といたしました。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

### ■収益分配金の計算過程

計算期間末における純資産額の元本超過額28,301,786円が、経費控除後の配当等収益4,591,431円を超過しているため、純資産額の元本超過額28,301,786円（1万口当り707.54円）を分配対象額として、うち2,800,000円（1万口当り70円）を分配金額としております。



## 今後の運用方針

### ■当ファンド

「ダイワ高格付日本企業外債マザーファンド2016-08」の受益証券を高位に組み入れます。

### ■ダイワ高格付日本企業外債マザーファンド2016-08

主として日系企業が発行する米ドル建ての債券に投資し、金融セクターを軸としたポートフォリオを維持することにより、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざす方針です。



## 1万口当りの費用の明細

項 目	当 期 (2018. 3. 13~2018. 9. 10)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	28円	0. 269%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は10, 535円です。
(投 信 会 社)	(17)	(0. 161)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託銀行への運用指図、基準価額の計算、目論見書・運用報告書の作成等の対価
(販 売 会 社)	(10)	(0. 094)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 銀 行)	(1)	(0. 013)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	—	—	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有 価 証 券 取 引 税	—	—	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	1	0. 010	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(1)	(0. 006)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監 査 費 用)	(0)	(0. 004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(そ の 他)	(0)	(0. 000)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	29	0. 279	

(注 1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注 2) 金額欄は各項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

(注 3) 比率欄は 1 万口当りのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

■売買および取引の状況

親投資信託受益証券の設定・解約状況

(2018年3月13日から2018年9月10日まで)

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
ダイワ高格付 日本企業外債 マザーファンド2016-08	—	—	292,383	320,000

(注) 単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等

当期中における利害関係人との取引はありません。

■組入資産明細表

親投資信託残高

種 類	当 期 末		
	口 数	口 数	評 価 額
	千口	千口	千円
ダイワ高格付日本企業外債 マザーファンド2016-08	674,830	382,447	423,369

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2018年9月10日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
ダイワ高格付日本企業外債 マザーファンド2016-08	423,369	98.6
コール・ローン等、その他	6,095	1.4
投資信託財産総額	429,464	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 外貨建資産は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。なお、9月10日における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル＝110.93円です。

(注3) ダイワ高格付日本企業外債マザーファンド2016-08において、当期末における外貨建純資産（6,137,723千円）の投資信託財産総額（6,155,054千円）に対する比率は、99.7%です。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2018年9月10日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	429,464,526円
コール・ローン等	6,095,402
ダイワ高格付日本企業外債 マザーファンド2016-08（評価額）	423,369,124
(B) 負債	3,962,740
未払収益分配金	2,800,000
未払信託報酬	1,139,296
その他未払費用	23,444
(C) 純資産総額（A－B）	425,501,786
元本	400,000,000
次期繰越損益金	25,501,786
(D) 受益権総口数	400,000,000口
1万口当り基準価額（C／D）	10,638円

\* 当期末の計算口数当りの純資産額は10,638円です。

■損益の状況

当期 自 2018年3月13日 至 2018年9月10日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	△ 532円
受取利息	6
支払利息	△ 538
(B) 有価証券売買損益	27,616,758
売買益	27,616,758
(C) 有価証券評価差損益	1,106,857
(D) 信託報酬等	△ 1,590,958
(E) 当期損益金（A＋B＋C＋D）	27,132,125
(F) 前期繰越損益金	19,061,353
(G) 解約差損益金	△ 17,891,692
(H) 合計（E＋F＋G）	28,301,786
(I) 収益分配金	△ 2,800,000
次期繰越損益金（H＋I）	25,501,786

(注1) 有価証券評価差損益は、有価証券の期末の評価損益と期首との差額です。

(注2) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。

(注3) 解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。

(注4) 収益分配金の計算過程は14ページをご参照ください。

<b>収 益 分 配 金 の お 知 ら せ</b>	
<b>1 万 口 当 り 分 配 金 (税 込 み)</b>	<b>70円</b>

**分配金の課税上の取扱いについて**

- ・分配金については、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%および地方税5%）の税率による源泉徴収が行なわれ、申告不要制度が適用されます。なお、確定申告を行ない、申告分離課税または総合課税（配当控除の適用はありません。）を選択することもできます。
- ・法人の受益者の場合、税率が異なります。
- ・税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になることがあります。くわしくは、販売会社にお問い合わせください。
- ・課税上の取扱いの詳細につきましては、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

部分為替ヘッジあり

設定以来の運用実績

決算期	基準価額 (分配落)	価額			受益者 利回り	公社債 組入比率	債券 先物比率	元本 残存率
		税込み 分配金	期中 騰落額	期中 騰落率				
設定(2016年8月18日)	円 10,000	円 —	円 —	% —	% —	% —	% —	% 100.0
1期末(2017年3月10日)	9,958	80	38	0.4	0.7	96.0	—	100.0
2期末(2017年9月11日)	10,038	50	130	1.3	1.6	94.0	—	100.0
3期末(2018年3月12日)	9,702	30	△ 306	△ 3.0	△ 0.9	89.3	—	100.0
4期末(2018年9月10日)	9,767	10	75	0.8	△ 0.3	98.7	—	100.0

(注1) 基準価額の騰落額および騰落率は分配金込み。

(注2) 公社債および債券先物の組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

(注3) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）を除きます。

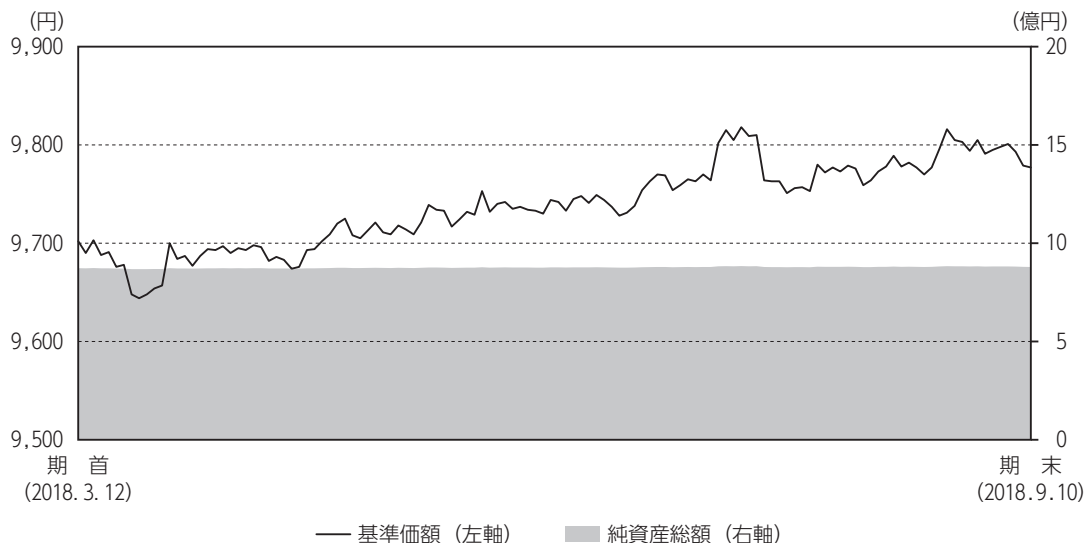
(注4) 債券先物比率は買建比率－売建比率です。

(注5) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。



## 運用経過

### 基準価額等の推移について



(注) 期末の基準価額は分配金込みです。

#### ■ 基準価額・騰落率

期首：9,702円

期末：9,767円 (分配金10円)

騰落率：0.8% (分配金込み)

#### ■ 基準価額の変動要因

「ダイワ高格付日本企業外債マザーファンド2016-08」の受益証券を通じて、主として日系企業が発行する米ドル建ての社債に投資し、為替変動リスクを低減するため、部分為替ヘッジを行なった結果、社債金利の上昇（債券価格の下落）はマイナス要因となったものの、保有債券からの利息収入や円安米ドル高がプラスに寄与したため、基準価額は上昇しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

ダイワ高格付日本企業外債ファンド（部分為替ヘッジあり）2016-08

年 月 日	基 準	価 額		公 社 債 率 組 入 比	債 先 物 比 券 率
		騰 落 率			
(期首)2018年3月12日	円	9,702	% —	% 89.3	% —
3月末		9,684	△ 0.2	96.2	—
4月末		9,709	0.1	99.9	—
5月末		9,732	0.3	97.0	—
6月末		9,763	0.6	97.7	—
7月末		9,753	0.5	98.8	—
8月末		9,791	0.9	98.8	—
(期末)2018年9月10日		9,777	0.8	98.7	—

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

## 投資環境について

(2018. 3. 13 ~ 2018. 9. 10)

### ■米国債券市況

米国債券市場では、国債や社債の金利が上昇（債券価格は下落）しました。

期首より、米国が保護主義的な政策を相次いで打ち出したことを受けて市場のリスク回避姿勢が強まったことなどから、国債金利は低下したものの、2018年4月以降は、米中貿易摩擦への懸念が後退し、金利は上昇傾向となりました。しかし5月後半に入ると、イタリアの政治情勢に対する懸念が高まり、金利は急速に低下しました。その後は、イタリアの政治情勢への懸念が和らいだことに加え、FOMC（米国連邦公開市場委員会）で利上げが実施されたことや雇用統計で賃金上昇率が予想以上の伸びになり、インフレ率の上昇が懸念されたことを背景に、金利は上昇しました。

こうした環境下、米ドル建ての社債については、期首より市場のリスク回避姿勢が強まったことを背景にスプレッド（国債に対する上乗せ金利）が拡大したものの、2018年6月以降は反転し、期末にかけて拡大幅を縮める展開となりました。

### ■為替相場

米ドルは対円で上昇しました。

期首から2018年3月末にかけては、米中貿易摩擦に対する懸念から市場のリスク回避姿勢が強まり、米ドル円は下落しました。その後は、米中貿易摩擦への懸念が後退したことや米国金利の上昇などを背景に、米ドル円は上昇しました。5月後半には、イタリアの政治情勢に対する懸念から円高圧力が一時強まりましたが、その後は、FOMCにおいて利上げの加速が示唆されたことや株価が堅調に推移したことなどから、米ドル円は上昇する動きとなりました。しかし7月後半以降は、日銀が長期金利の上昇を容認するとの観測から円高が進行し、米ドル円は上値が重い展開が続きました。

## 前期における「今後の運用方針」

### ■当ファンド

「ダイワ高格付日本企業外債マザーファンド2016-08」の受益証券を高位に組み入れるとともに、為替変動リスクを低減するため、部分為替ヘッジを行いません。

### ■ダイワ高格付日本企業外債マザーファンド2016-08

主として日系企業が発行する米ドル建ての債券に投資し、金融セクターを軸としたポートフォリオを維持することにより、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざす方針です。

## ポートフォリオについて

(2018. 3. 13 ~ 2018. 9. 10)

### ■当ファンド

「ダイワ高格付日本企業外債マザーファンド2016-08」の受益証券を高位に組み入れるとともに、為替変動リスクを低減するため、部分為替ヘッジを行ないました。

### ■ダイワ高格付日本企業外債マザーファンド2016-08

主として日系企業が発行する米ドル建ての債券に投資し、流動性や利回り面で投資妙味のある金融セクターを軸とするポートフォリオを維持しました。

## ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

## 分配金について

当期の1万口当り分配金（税込み）は10円といたしました。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

### ■収益分配金の計算過程

計算期間末における経費控除後の配当等収益が9,576,179円であり、純資産額の元本超過額がないため、経費控除後の配当等収益9,576,179円（1万口当り106.40円）を分配対象額として、うち900,000円（1万口当り10円）を分配金額としております。





## 今後の運用方針

### ■当ファンド

「ダイワ高格付日本企業外債マザーファンド2016-08」の受益証券を高位に組み入れるとともに、為替変動リスクを低減するため、部分為替ヘッジを行いません。

### ■ダイワ高格付日本企業外債マザーファンド2016-08

主として日系企業が発行する米ドル建ての債券に投資し、金融セクターを軸としたポートフォリオを維持することにより、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざす方針です。

## 1万口当りの費用の明細

項 目	当 期 (2018. 3. 13~2018. 9. 10)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	26円	0. 269%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は9, 738円です。
(投 信 会 社)	(16)	(0. 162)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託銀行への運用指図、基準価額の計算、目論見書・運用報告書の作成等の対価
(販 売 会 社)	(9)	(0. 094)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 銀 行)	(1)	(0. 013)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	—	—	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有 価 証 券 取 引 税	—	—	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	1	0. 012	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(1)	(0. 007)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監 査 費 用)	(0)	(0. 004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(そ の 他)	(0)	(0. 002)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	27	0. 282	

(注 1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注 2) 金額欄は各項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

(注 3) 比率欄は 1 万口当りのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

■売買および取引の状況

親投資信託受益証券の設定・解約状況

(2018年3月13日から2018年9月10日まで)

	設 定		解 約	
	□ 数	金 額	□ 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
ダイワ高格付 日本企業外債 マザーファンド2016-08	—	—	25,216	27,500

(注) 単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等

当期中における利害関係人との取引はありません。

■組入資産明細表

親投資信託残高

種 類	当 期 末		
	□ 数	□ 数	評 価 額
	千口	千口	千円
ダイワ高格付日本企業外債 マザーファンド2016-08	818,449	793,233	878,108

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2018年9月10日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
ダイワ高格付日本企業外債 マザーファンド2016-08	878,108	99.0
コール・ローン等、その他	9,234	1.0
投資信託財産総額	887,343	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 外貨建資産は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。なお、9月10日における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル＝110.93円です。

(注3) ダイワ高格付日本企業外債マザーファンド2016-08において、当期末における外貨建純資産(6,137,723千円)の投資信託財産総額(6,155,054千円)に対する比率は、99.7%です。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2018年9月10日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	1,500,325,797円
コール・ローン等	9,104,182
ダイワ高格付日本企業外債 マザーファンド2016-08 (評価額)	878,108,943
未収入金	613,112,672
(B) 負債	621,291,946
未払金	617,996,698
未払収益分配金	900,000
未払信託報酬	2,359,882
その他未払費用	35,366
(C) 純資産総額 (A - B)	879,033,851
元本	900,000,000
次期繰越損益金	△ 20,966,149
(D) 受益権総口数	900,000,000口
1万口当り基準価額 (C / D)	9,767円

\* 当期末の計算口数当りの純資産額は9,767円です。

\* 当期末の純資産総額が元本額を下回っており、その差額は20,966,149円です。

■損益の状況

当期 自 2018年3月13日 至 2018年9月10日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	△ 1,481円
受取利息	24
支払利息	△ 1,505
(B) 有価証券売買損益	△ 27,477,747
売買益	5,594,367
売買損	△ 33,072,114
(C) 有価証券評価差損益	36,676,945
(D) 信託報酬等	△ 2,408,637
(E) 当期損益金 (A + B + C + D)	6,789,080
(F) 前期繰越損益金	△ 26,855,229
(G) 合計 (E + F)	△ 20,066,149
(H) 収益分配金	△ 900,000
次期繰越損益金 (G + H)	△ 20,966,149

(注1) 有価証券評価差損益は、有価証券の期末の評価損益と期首との差額です。

(注2) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。

(注3) 収益分配金の計算過程は23ページをご参照ください。

収 益 分 配 金 の お 知 ら せ	
1 万 口 当 り 分 配 金 (税 込 み)	10円

**分配金の課税上の取扱いについて**

- ・分配金については、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%および地方税5%）の税率による源泉徴収が行なわれ、申告不要制度が適用されます。なお、確定申告を行ない、申告分離課税または総合課税（配当控除の適用はありません。）を選択することもできます。
- ・法人の受益者の場合、税率が異なります。
- ・税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になることがあります。くわしくは、販売会社にお問い合わせください。
- ・課税上の取扱いの詳細につきましては、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

# ダイワ高格付日本企業外債マザーファンド2016-08

## 運用報告書 第4期 (決算日 2018年9月10日)

(計算期間 2018年3月13日～2018年9月10日)

ダイワ高格付日本企業外債マザーファンド2016-08の第4期にかかる運用状況をご報告申し上げます。

### ★当ファンドの仕組みは次の通りです。

運用方針	安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないます。
主要投資対象	米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての社債等
運用方法	<p>①主として、日系企業が発行する外貨建ての社債等（劣後債を除きます。以下同じ。）に投資することにより、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないます。 ※日系企業とは、日本企業もしくはその子会社をいいます。 ※社債等には、日本の政府機関、地方公共団体等が発行する債券を含みます。</p> <p>②運用にあたっては、以下の点に留意します。</p> <p>イ. 投資対象は、主として日系企業が発行する米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての社債等とします。 ※必ずしも、上記通貨のすべてが組み入れられるわけではありません。</p> <p>ロ. 流動性の確保およびポートフォリオの修正デュレーションの調整のため、米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての海外の国債やコマーシャル・ペーパー等に投資することがあります。</p> <p>ハ. 債券の格付けは、取得時においてA格相当以上（R &amp; I、J C R、S &amp; P、フィッチのいずれかでA-以上またはムーディーズでA3以上）とします。</p> <p>ニ. ポートフォリオの修正デュレーションは、当ファンドの残存年数+0.3（年）以内とすることをめざします。</p> <p>③為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは原則として行ないません。</p>
株式組入制限	純資産総額の10%以下

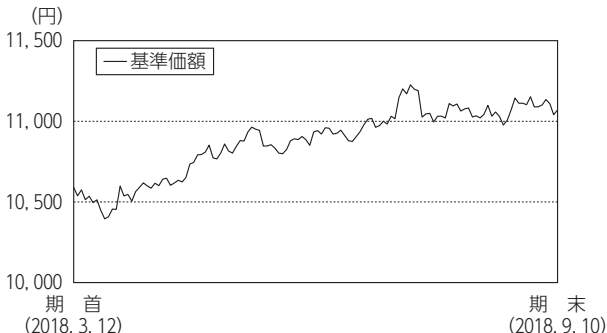
## 大和投資信託

Daiwa Asset Management

東京都千代田区丸の内一丁目9番1号

<http://www.daiwa-am.co.jp/>

■当期中の基準価額の推移



年 月 日	基 準 価 額		公 社 債 組 入 比 率	債 券 先 物 比 率
	円	%		
(期首) 2018年 3月12日	10,590	—	90.0	—
3月末	10,537	△ 0.5	97.2	—
4月末	10,794	1.9	98.8	—
5月末	10,799	2.0	98.6	—
6月末	10,980	3.7	98.0	—
7月末	11,021	4.1	98.6	—
8月末	11,089	4.7	98.4	—
(期末) 2018年 9月10日	11,070	4.5	98.8	—

(注1) 騰落率は期首比。  
 (注2) 公社債組入比率は新株予約権付社債券(転換社債券)を除きます。  
 (注3) 債券先物比率は買建比率-売建比率です。  
 (注4) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。

《運用経過》

◆基準価額等の推移について

【基準価額・騰落率】

期首：10,590円 期末：11,070円 騰落率：4.5%

【基準価額の主な変動要因】

主として日系企業が発行する米ドル建ての社債に投資した結果、社債金利の上昇(債券価格の下落)はマイナス要因となったものの、保有債券からの利息収入や円安米ドル高がプラスに寄与したため、基準価額は上昇しました。

◆投資環境について

○米国債券市場

米国債券市場では、国債や社債の金利が上昇(債券価格は下落)しました。

期首より、米国が保護主義的な政策を相次いで打ち出したことを受けて市場のリスク回避姿勢が強まったことなどから、国債金利は低下したものの、2018年4月以降は、米中貿易摩擦への懸念が後退し、金利は上昇傾向となりました。しかし5月後半に入ると、イタリアの政治情勢に対する懸念が高まり、金利は急速に低下しました。その後は、イタリアの政治情勢への懸念が和らいだことに加え、FOMC(米連邦公開市場委員会)で利上げが実施されたことや雇用統計で賃金上昇率が予想以上の伸びになり、インフレ率の上昇が懸念されたことを背景に、金利は上昇しました。

こうした環境下、米ドル建ての社債については、期首より市場のリスク回避姿勢が強まったことを背景にスプレッド(国債に対する上乗せ金利)が拡大したものの、2018年6月以降は反転し、期末にかけて拡大幅を縮める展開となりました。

○為替相場

米ドルは対円で上昇しました。

期首から2018年3月末にかけては、米中貿易摩擦に対する懸念から市場のリスク回避姿勢が強まり、米ドル円は下落しました。その後は、米中貿易摩擦への懸念が後退したことや米国金利の上昇などを背景に、米ドル円は上昇しました。5月後半には、イタリアの政治情勢に対する懸念から円高圧力が一時強まりましたが、その後は、FOMCにおいて利上げの加速が示唆されたことや株価が堅調に推移したことなどから、米ドル円は上昇する動きとなりました。しかし7月後半以降は、日銀が長期金利の上昇を容認するとの観測から円高が進行し、米ドル円は上値が重い展開が続きました。

◆前期における「今後の運用方針」

主として日系企業が発行する米ドル建ての債券に投資し、金融セクターを軸としたポートフォリオを維持することにより、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざす方針です。

◆ポートフォリオについて

主として日系企業が発行する米ドル建ての債券に投資し、流動性や利回り面で投資妙味のある金融セクターを軸とするポートフォリオを維持しました。

◆ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

《今後の運用方針》

主として日系企業が発行する米ドル建ての債券に投資し、金融セクターを軸としたポートフォリオを維持することにより、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざす方針です。

■1万口当りの費用の明細

項 目	当 期
売買委託手数料	—円
有価証券取引税	—
その他費用 (保管費用)	1 ( 1)
(その他)	( 0)
合 計	1

(注1) 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。費用の項目および算出法については前掲の「1万口当りの費用の明細」の項目の概要をご参照ください。

(注2) 各項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

■売買および取引の状況

公 社 債

(2018年3月13日から2018年9月10日まで)

		買付額		売付額	
		千アメリカ・ドル	千アメリカ・ドル	千アメリカ・ドル	千アメリカ・ドル
外 国	アメリカ	地方債証券	—	( — )	1,541
		特殊債券	—	( — )	2,874
		社債券	—	( — )	10,440

(注1) 金額は受渡し代金(経過利子分は含まれておりません)。

(注2) ( )内は償還による減少分で、上段の数字には含まれておりません。

(注3) 社債券には新株予約権付社債券(転換社債券)は含まれておりません。

(注4) 単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄

公 社 債

(2018年3月13日から2018年9月10日まで)

買 銘 柄	当 期		期 末	
	付 金 額	金 額	売 銘 柄	付 金 額
		千円		千円
		Mizuho Financial Group Inc (日本) 2.632% 2021/4/12		170,400
		ORIX Corp (日本) 2.65% 2021/4/13		169,819
		Sumitomo Mitsui Financial Group Inc (日本) 2.632% 2026/7/14		169,079
		Tokyo Metropolitan Government (日本) 2% 2021/5/17		168,964
		Toyota Motor Credit Corp (アメリカ) 3.3% 2022/1/12		166,062
		JAPAN FIN. CORP. MUNI. ENT. (日本) 4% 2021/1/13		145,351
		NTT Finance Corp (日本) 1.9% 2021/7/21		144,410
		Mitsubishi UFJ Financial Group Inc (日本) 3.85% 2026/3/1		130,724
		JAPAN BANK FOR INTL. COOP. (日本) 1.75% 2019/5/29		129,173
		Central Nippon Expressway Co Ltd (日本) 2.381% 2020/9/17		85,586

(注1) 金額は受渡し代金(経過利子分は含まれておりません)。

(注2) 単位未満は切捨て。

■組入資産明細表

(1)外国(外貨建)公社債(通貨別)

作 成 期	区 分	額 面 金 額	当 期		組入比率	うちBB格以下組入率	残存期間別組入比率		
			評 価 額				5年以上	2年以上	2年未満
			外 貨 建 金 額	邦貨換算金額					
		千アメリカ・ドル	千アメリカ・ドル	千円	%	%	%	%	%
	アメリカ	56,300	54,809	6,080,028	98.8	—	16.2	69.9	12.7

(注1) 邦貨換算金額は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。

(注2) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

(注3) 額面金額、評価額の単位未満は切捨て。

(注4) 評価額および格付情報については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入力しています。

# ダイワ高格付日本企業外債マザーファンド2016-08

## (2)外国 (外貨建) 公社債 (銘柄別)

区 分	銘 柄	種 類	年 利 率	額 面 金 額	評 価 額		償 還 年 月 日
					千アメリカ・ドル	千円	
アメリカ	Tokyo Metropolitan Government	地方債証券	2.0000	4,400	4,261	472,682	2021/05/17
	JAPAN BANK FOR INTL. COOP.	特殊債券	1.8750	600	541	60,015	2026/07/21
	JAPAN BANK FOR INTL. COOP.	特殊債券	1.7500	600	595	66,076	2019/05/29
	JAPAN FIN. CORP. MUNI. ENT.	特殊債券	4.0000	4,200	4,275	474,329	2021/01/13
	Mitsubishi UFJ Trust & Banking Corp	社 債 券	2.4500	2,000	1,986	220,331	2019/10/16
	Toyota Motor Credit Corp	社 債 券	3.3000	1,500	1,503	166,781	2022/01/12
	Toyota Motor Credit Corp	社 債 券	2.7500	2,000	1,981	219,770	2021/05/17
	Nissan Motor Acceptance Corp	社 債 券	2.5500	700	684	75,938	2021/03/08
	Mizuho Financial Group Inc	社 債 券	2.6320	4,600	4,501	499,388	2021/04/12
	Mitsubishi UFJ Financial Group Inc	社 債 券	3.8500	2,800	2,774	307,730	2026/03/01
	Mitsubishi UFJ Financial Group Inc	社 債 券	2.9500	1,600	1,581	175,386	2021/03/01
	Sumitomo Mitsui Financial Group Inc	社 債 券	2.6320	4,800	4,364	484,185	2026/07/14
	Japan Tobacco Inc	社 債 券	2.0000	3,500	3,381	375,147	2021/04/13
	Japan Tobacco Inc	社 債 券	2.8000	1,400	1,320	146,493	2026/04/13
	ORIX Corp	社 債 券	2.6500	4,600	4,481	497,097	2021/04/13
	Central Nippon Expressway Co Ltd	社 債 券	2.3620	2,300	2,234	247,834	2021/05/28
	Central Nippon Expressway Co Ltd	社 債 券	2.2410	2,000	1,951	216,466	2021/02/16
	Central Nippon Expressway Co Ltd	社 債 券	2.3810	600	589	65,367	2020/09/17
	AMERICAN HONDA FINANCE	社 債 券	1.6500	1,000	958	106,360	2021/07/12
	Bank of Tokyo-Mitsubishi UFJ Ltd/The	社 債 券	2.7500	2,000	1,977	219,308	2020/09/14
	Mitsubishi UFJ Lease&Finance Co Ltd	社 債 券	2.5000	4,500	4,444	493,055	2020/03/09
	NTT Finance Corp	社 債 券	1.9000	4,600	4,419	490,280	2021/07/21
	合 計	銘柄数	22銘柄				
金 額				56,300	54,809	6,080,028	

(注1) 邦貨換算金額は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。

(注2) 額面金額、評価額の単位未満は切捨て。

## ■投資信託財産の構成

2018年9月10日現在

項 目	当 期	末
	評 価 額	比 率
公社債	6,080,028 千円	98.8 %
コール・ローン等、その他	75,025	1.2
投資信託財産総額	6,155,054	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 外貨建資産は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。なお、9月10日における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル＝110.93円です。

(注3) 当期末における外貨建純資産 (6,137,723千円) の投資信託財産総額 (6,155,054千円) に対する比率は、99.7% です。



■資産、負債、元本および基準価額の状況

2018年9月10日現在

項 目	当 期 末
<b>(A) 資産</b>	<b>6,155,054,226円</b>
コール・ローン等	27,537,320
公社債（評価額）	6,080,028,596
未収利息	47,488,310
<b>(B) 負債</b>	<b>414</b>
その他未払費用	414
<b>(C) 純資産総額（A－B）</b>	<b>6,155,053,812</b>
元本	5,559,876,617
次期繰越損益金	595,177,195
<b>(D) 受益権総口数</b>	<b>5,559,876,617口</b>
1万口当り基準価額（C／D）	11,070円

\* 期首における元本額は7,863,815,616円、当期中における追加設定元本額は36,951,502円、同解約元本額は2,340,890,501円です。

\* 当期末における当マザーファンドを投資対象とする投資信託の元本額は、ダイワ高格付日本企業外債ファンド（為替ヘッジあり）2016-08 4,384,196,339円、ダイワ高格付日本企業外債ファンド（為替ヘッジなし）2016-08 382,447,267円、ダイワ高格付日本企業外債ファンド（部分為替ヘッジあり）2016-08 793,233,011円です。

\* 当期末の計算口数当りの純資産額は11,070円です。

■損益の状況

当期 自 2018年3月13日 至 2018年9月10日

項 目	当 期
<b>(A) 配当等収益</b>	<b>91,794,664円</b>
受取利息	91,803,449
支払利息	△ 8,785
<b>(B) 有価証券売買損益</b>	<b>224,536,420</b>
売買益	270,625,586
売買損	△ 46,089,166
<b>(C) その他費用</b>	<b>△ 445,467</b>
<b>(D) 当期損益金（A＋B＋C）</b>	<b>315,885,617</b>
<b>(E) 前期繰越損益金</b>	<b>464,252,579</b>
<b>(F) 解約差損益金</b>	<b>△ 188,009,499</b>
<b>(G) 追加信託差損益金</b>	<b>3,048,498</b>
<b>(H) 合計（D＋E＋F＋G）</b>	<b>595,177,195</b>
次期繰越損益金（H）	595,177,195

（注1）解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。

（注2）追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。